

令和5年度 学校経営方針 流山市立長崎小学校
学校教育目標 「共に学び、共に生きる子どもの育成」

<めざす児童像>

- (1)自ら律することのできる子
- (2)判断力のある子
- (3)人との関わりから学ぶ子

<めざす教師像>

- <i>児童の成長に寄与する教師（確かな力・学力を育てる）
- <ii>子どもの良さを見つけ自信を育てる教師（一人一人に寄り添う）
- <iii>自己研鑽に努める教師（課題に前向きに取り組む）

<めざす学校像>

- [I]基礎・基本となる学力が身につく学校
- [II]全ての児童の居場所となれる学校
- [III]児童や地域から愛着を持たれる学校

<学校経営の重点>

- ①児童自ら考えさせる教育 →(1)(2)<i><ii>[II]
 - ・生徒指導の3機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係)を活かした学年・学級経営に努める。
 - ・校内のきまりを見直し、全ての指導に意味と納得感を持たせる。
 - ・発達段階に応じて、児童自らがより良い方法や解決策を発見できるよう努める。
- ②関わり合いから学ばせる教育 →(3)<i><ii>[II][III]
 - ・学年、学級や異年齢集団の活動を通し所属感を高める。
 - ・思いやりや規範意識を他者との関わりの中で育成する。
 - ・情報発信や交流を通して、家庭や地域と協働した取り組みを行う。
- ③ユニバーサルデザインを前提とした教育 →<ii>[II]
 - ・全ての児童に門戸を開放した学校となるよう環境や指導に常にユニバーサルな視点を持つ。
 - ・できて当然、わかって当然というバイアスをかけない指導に努める。
- ④協働・協力による教育 →(1)～[III]全て
 - ・3年生から学年担当制、教科担当制による学年運営を行い、複数職員の協働による学習指導、生徒指導、特別活動指導を行う。
 - ・全ての学年でチームティーチングなどの複数職員による学習指導を取り入れる。
 - ・いじめの未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。
- ⑤全教育課程を通じた確かな学力の育成 →(1)[I]
 - ・長小タイム、はげみタイムを活用したスキル学習や習熟度別学習の充実を図り、学年に応じた学習内容の習得を進める。
 - ・長小タイムや45分授業を工夫し、児童自らの計画による補充発展的な学習を行う。

<その他>

- (1)学校運営
 - ・職員間の「報告・連絡・相談」を重視し、常に連携して動ける組織作りに努める。
- (2)特別支援教育
 - ・校内支援会議を充実させ、児童の困り感に対応できる校内体制を構築する。
- (3)職員研修
 - ・時機を逃さず、児童や職員の課題に応じた研修を行う。
 - ・職員の年齢や経験に応じた研修の充実に努め、動ける職員を育成する。
- (4)リテラシー教育
 - ・情報化社会の中、情報モラルを高めるリテラシー教育を推進する。
 - ・読書や新聞を読む活動を大切に、活字文化にも親しませる。
- (5)危機対応
 - ・清潔で美しい校内環境を維持する。
 - ・「事故発生時対応の基本」(いじめトラブル含む)
 - I 報告・連絡・相談の徹底 自分一人で処理しない
 - II 校内での怪我は、基本的に学校責任(首から上の怪我は必ず管理職に報告する)
 - III 事後のケアの徹底 (家庭訪問・電話等)(連絡が遅れないこと)
 - ・緊急時 救急車を呼ぶことをためらわない。